

IN THE U.S. PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re application of: Shigeyuki MIYAMOTO et al.
Appl. No.: **NEW NON-PROVISIONAL** Conf.:
Filed: September 3, 2003 Group:
Title: ENVIRONMENTAL ASSESMENT SYSTEM AND
METHOD THEREOF Examiner:

CLAIM TO PRIORITY

Assistant Commissioner for Patents
P.O. Box 1450
Alexandria, VA 22313-1450

September 3, 2003

Sir:

Applicant(s) herewith claim(s) the benefit of the
priority filing date of the following application(s) for the
above-entitled U.S. application under the provisions of 35
U.S.C. § 119 and 37 C.F.R. § 1.55:

<u>Country</u>	<u>Application No.</u>	<u>Filed</u>
JAPAN	2002-258850	September 4, 2002

Certified copy(ies) of the above-noted application(s)
is(are) attached hereto.

Respectfully submitted,

YOUNG & THOMPSON



Benoit Castel, Reg. No. 35,041

745 South 23rd Street
Arlington, VA 22202
Telephone (703) 521-2297

BC/ma

Attachment(s): 1 Certified Copy(ies)

02

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2002年 9月 4日

出 願 番 号

Application Number:

特願2002-258850

[ST.10/C]:

[JP 2002-258850]

出 願 人

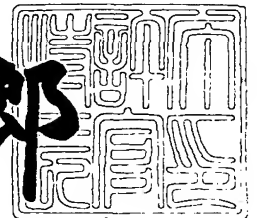
Applicant(s):

日本電気株式会社

2003年 6月20日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

太田信一郎



出証番号 出証特2003-3048661

【書類名】 特許願

【整理番号】 33703932

【提出日】 平成14年 9月 4日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 G06F 17/60

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都港区芝五丁目 7 番 1 号 日本電気株式会社内

 【氏名】 宮本 重幸

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都港区芝五丁目 7 番 1 号 日本電気株式会社内

 【氏名】 原田 大生

【特許出願人】

 【識別番号】 000004237

 【氏名又は名称】 日本電気株式会社

【代理人】

 【識別番号】 100088328

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 金田 暢之

 【電話番号】 03-3585-1882

【選任した代理人】

 【識別番号】 100106297

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 伊藤 克博

【選任した代理人】

 【識別番号】 100106138

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 石橋 政幸

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 089681

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9710078

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 環境負荷評価装置、方法及び環境負荷評価用プログラム

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 基準製品と対象製品の総合環境負荷値を比較評価する環境負荷評価装置であって、

前記基準製品の情報を入力する基準製品情報入力部と、

前記基準製品情報入力部に入力された情報を蓄積する基準製品情報蓄積部と、

前期対象製品の情報を入力する対象製品情報入力部と、

前記対象製品情報入力部に入力された情報を蓄積する対象製品情報蓄積部と、

環境負荷原単位を蓄積した環境負荷情報蓄積部と、

前記基準製品情報蓄積部と、前記対象製品情報蓄積部と、前記環境負荷情報蓄積部に蓄積された情報から、基準製品及び対象製品の総合環境負荷値を算出する環境負荷評価部と、

前記環境負荷評価部で算出された基準製品及び対象製品の総合環境負荷値を出力する出力部とを備えたことを特徴とする環境負荷評価装置。

【請求項 2】 前記基準製品情報入力部が、前記基準製品の機器電力消費に関する情報を入力する基準製品機器電力消費量入力部を備え、前記対象製品の機器電力消費に関する情報を入力する対象製品機器電力消費量入力部を備えたことを特徴とする請求項 1 に記載の環境負荷評価装置。

【請求項 3】 前記基準製品情報入力部が、前記基準製品の情報紙使用に関する情報を入力する基準製品情報紙使用量入力部を備え、前記対象製品の情報紙使用に関する情報を入力する対象製品情報紙使用量入力部を備えたことを特徴とする請求項 1 に記載の環境負荷評価装置。

【請求項 4】 前記基準製品情報入力部が、前記基準製品の人移動に関する情報を入力する基準製品人移動量入力部を備え、前記対象製品の人移動に関する情報を入力する対象製品人移動量入力部を備えたことを特徴とする請求項 1 に記載の環境負荷評価装置。

【請求項 5】 前記基準製品情報入力部が、前記基準製品の物品輸送に関する情報を入力する基準製品物品輸送量入力部を備え、前記対象製品の物品輸送に

関する情報を入力する対象製品物品輸送量入力部を備えたことを特徴とする請求項 1 に記載の環境負荷評価装置。

【請求項 6】 前記基準製品情報入力部が、前記基準製品のネットワークサービス利用に関する情報を入力する基準製品ネットワークサービス利用量入力部を備え、前記対象製品のネットワークサービス利用に関する情報を入力する対象製品ネットワークサービス利用量入力部を備えたことを特徴とする請求項 1 に記載の環境負荷評価装置。

【請求項 7】 前記基準製品情報入力部が、前記基準製品の廃棄在庫に関する情報を入力する基準製品廃棄在庫量入力部を備え、前記対象製品の廃棄在庫に関する情報を入力する対象製品廃棄在庫量入力部を備えたことを特徴とする請求項 1 に記載の環境負荷評価装置。

【請求項 8】 前記基準製品情報入力部が、前記基準製品の保管在庫に関する情報を入力する基準製品保管在庫量入力部を備え、前記対象製品の保管在庫に関する情報を入力する対象製品保管在庫量入力部を備えたことを特徴とする請求項 1 に記載の環境負荷評価装置。

【請求項 9】 基準製品と対象製品の総合環境負荷値を比較評価する環境負荷評価方法であって、

基準製品の情報及び対象製品の情報を対比しながら同時に入力し、
入力された基準製品と対象製品の情報を別々に蓄積し、
基準製品の情報と環境負荷原単位から、基準製品の総合環境負荷値を算出し、
対象製品の情報と環境負荷原単位から、対象製品の総合環境負荷値を算出し、
基準製品の総合環境負荷値と対象製品の総合環境負荷値を比較表示することを特徴とする環境負荷評価方法。

【請求項 10】 前記基準製品の情報及び対象製品の情報が、機器電力消費に関する情報を含むことを特徴とする請求項 9 に記載の環境負荷評価方法。

【請求項 11】 前記基準製品の情報及び対象製品の情報が、情報紙使用に関する情報を含むことを特徴とする請求項 9 に記載の環境負荷評価方法。

【請求項 12】 前記基準製品の情報及び対象製品の情報が、人移動に関する情報を含むことを特徴とする請求項 9 に記載の環境負荷評価方法。

【請求項 1 3】 前記基準製品の情報及び対象製品の情報が、物品輸送に関する情報を含むことを特徴とする請求項 9 に記載の環境負荷評価方法。

【請求項 1 4】 前記基準製品の情報及び対象製品の情報が、ネットワークサービス利用に関する情報を含むことを特徴とする請求項 9 に記載の環境負荷評価方法。

【請求項 1 5】 前記基準製品の情報及び対象製品の情報が、廃棄在庫に関する情報を含むことを特徴とする請求項 9 に記載の環境負荷評価方法。

【請求項 1 6】 前記基準製品の情報及び対象製品の情報が、保管在庫に関する情報を含むことを特徴とする請求項 9 に記載の環境負荷評価方法。

【請求項 1 7】 基準製品と対象製品の総合環境負荷値を比較評価する環境負荷評価用プログラムであって、

基準製品の情報の入力を受け付ける処理と、

対象製品の情報の入力を受け付ける処理と、

基準製品の情報を蓄積する処理と、

対象製品の情報を蓄積する処理と、

基準製品の情報と環境負荷原単位から、基準製品の総合環境負荷値を算出する処理と、

対象製品の情報と環境負荷原単位から、対象製品の総合環境負荷値を算出する処理と、

基準製品の総合環境負荷値と対象製品の総合環境負荷値を比較表示する処理とをコンピュータに実行させる、環境負荷評価用プログラム。

【請求項 1 8】 前記基準製品の情報及び対象製品の情報が、機器電力消費に関する情報を含むことを特徴とする請求項 1 7 に記載の環境負荷評価用プログラム。

【請求項 1 9】 前記基準製品の情報及び対象製品の情報が、情報紙使用に関する情報を含むことを特徴とする請求項 1 7 に記載の環境負荷評価用プログラム。

【請求項 2 0】 前記基準製品の情報及び対象製品の情報が、人移動に関する情報を含むことを特徴とする請求項 1 7 に記載の環境負荷評価用プログラム。

【請求項 2 1】 前記基準製品の情報及び対象製品の情報が、物品輸送に関する情報を含むことを特徴とする請求項 1 7 に記載の環境負荷評価用プログラム。

【請求項 2 2】 前記基準製品の情報及び対象製品の情報が、ネットワークサービス利用に関する情報を含むことを特徴とする請求項 1 7 に記載の環境負荷評価用プログラム。

【請求項 2 3】 前記基準製品の情報及び対象製品の情報が、廃棄在庫に関する情報を含むことを特徴とする請求項 1 7 に記載の環境負荷評価用プログラム。

【請求項 2 4】 前記基準製品の情報及び対象製品の情報が、保管在庫に関する情報を含むことを特徴とする請求項 1 7 に記載の環境負荷評価用プログラム。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、製品の環境負荷評価装置、方法及び環境負荷評価用プログラムに関し、特に、ハードウェアとソフトウェアから構成されるシステム製品の環境に対する負荷を改善する効果を評価する、製品の環境負荷評価装置、方法及び環境負荷評価用プログラムに関する。

【0 0 0 2】

【従来技術】

地球環境の保全などの観点から、工業製品等の各種製品が環境に与える影響を的確に評価し、環境負荷を低減することが求められるようになってきた。

【0 0 0 3】

製品の環境負荷を低減するためには、製造から処分に至るまでの製品のライフサイクルにわたる環境負荷を考慮して製品の設計を行う必要があり、このような設計を行うためには、ライフサイクルにわたる環境負荷を定量化する必要がある。ライフサイクルにわたる環境負荷を評価する方法として、ライフサイクルアセスメント（LCA）と呼ばれる手法が開発されている。

【 0 0 0 4 】

ライフサイクルアセスメントに基づいた、従来の環境評価装置が従来より提案されている（例えば、特許文献 1 参照）。

【 0 0 0 5 】

図 1 3 は、従来の環境負荷評価装置の構成を示すブロック図である。この環境評価装置は、製品の環境負荷値の算出に用いるデータを入力するための製品情報入力部 4 1 と、入力したデータを蓄積する環境負荷情報蓄積部 4 2 と、製品の総合環境負荷値を算出する製品環境負荷評価部 4 3 と、入力したデータや算出された総合環境負荷値を表示する出力部 4 4 から構成されている。

【 0 0 0 6 】

製品情報入力部 4 1 への入力内容は、製品のライフサイクルの各工程の内容に関する情報と、各工程間の結合関係に関する情報と、各工程で発生する環境負荷項目と、各環境負荷項目における環境負荷値である。

【 0 0 0 7 】

環境負荷情報蓄積部 4 2 は、製品情報入力部 4 1 に入力した各情報や項目、環境負荷値を蓄積する。

【 0 0 0 8 】

製品環境負荷評価部 4 3 は、環境負荷情報蓄積部 4 2 に蓄積された各工程の結合関係に基づいて、各工程で発生する環境負荷値を用いることにより、対象製品の総合環境負荷値を算出する。

【 0 0 0 9 】

図 1 3 に示した環境負荷評価装置に対し、画像情報蓄積部を設けることにより、製品のライフサイクルの各工程を容易に把握できるようになると共に、データ入力の誤りを防止できることが提案されている（例えば、特許文献 2 参照）。

【 0 0 1 0 】

また、環境負荷評価ユニットと環境負荷情報蓄積ユニットから構成され、環境負荷情報蓄積ユニットを環境負荷情報製造個所に分散配置することで、環境負荷情報の登録手順を容易にできることが提案されている（例えば、特許文献 3 参照）。

【 0 0 1 1 】

また、再生産製品の製造段階で用いられる新品部品の環境負荷データと、再生産製品の製造段階で用いられる再生部品の環境負荷データを用いることで、新品製品 2 台の環境負荷と、新品製品 1 台と再生産製品 1 台の計 2 台の環境負荷を比較でき、再生産製品の環境影響が評価できることが提案されている（例えば、特許文献 4 参照）。

【 0 0 1 2 】

【特許文献 1】

特開平 7 - 3 1 1 7 6 0 号公報

【特許文献 2】

特開平 9 - 1 6 6 6 3 号公報

【特許文献 3】

特開平 1 1 - 3 5 3 3 8 4 号公報

【特許文献 4】

特開 2 0 0 1 - 3 5 7 1 7 1 号公報

【 0 0 1 3 】

【発明が解決しようとする課題】

上述した従来の環境負荷評価装置の第 1 の問題点は、基準製品と比較して対象製品の環境負荷改善効果を評価するための操作が煩雑であるということである。

【 0 0 1 4 】

その理由は、従来の環境負荷評価装置は、単一製品の環境負荷を評価するための装置であるためである。従来の環境負荷評価装置で基準製品と比較して対象製品の環境負荷改善効果を評価するためには、まず、基準製品の環境負荷値の算出に用いるデータを入力して総合環境負荷を算出し、次に、対象製品の環境負荷値の算出に用いるデータを入力して総合環境負荷を算出し、これらの結果を比較するという作業が必要となり、操作が煩雑である。

【 0 0 1 5 】

特に、従来の環境負荷評価装置は、基準製品の環境負荷値の算出に用いるデータの入力と、対象製品の環境負荷値の算出に用いるデータの入力を順番に行う操

作が煩雑である。比較しようとする基準製品と対象製品は、一般に類似した製品である。例えば、基準製品が自社の旧型のコンピュータで対象製品が自社の新型のコンピュータである場合や、基準製品が他社の電話機で対象製品が自社の電話機などの場合である。

【 0 0 1 6 】

つまり、基準製品と対象製品の環境負荷値の算出に用いるデータはその一部が同じであったり、類似することが多く、このことから入力する内容も似通ったものとなり、このような場合には基準製品と対象製品のデータを対比しながら同時に入力することで簡易に入力を行なうことができる。しかしながら、従来の環境負荷評価装置では、環境負荷値の算出に用いるデータの入力を基準製品、対象製品の順番、あるいは対象製品、基準製品の順番で行う必要があり、基準製品と対象製品のデータを対比しながら同時に入力することができない。

【 0 0 1 7 】

従来の環境負荷評価装置の第 2 の問題点は、ハードウェアとソフトウェアから構成されるシステム製品の環境負荷を評価するための操作が煩雑であることである。

【 0 0 1 8 】

その理由は、従来の環境負荷評価装置は、システム製品の運用段階に関する、環境負荷評価に必要かつ十分な情報を入力できないためである。従来の環境負荷評価装置が評価対象としているハードウェア製品の使用段階の情報は、例えばコンピュータや電話機の場合の消費電力値と総動作時間など、比較的簡単なものである。

【 0 0 1 9 】

一方、システム製品の運用段階の情報は、システムを構成する機器の消費電力値や総動作時間の他、プリンタ用紙などの情報紙の使用量、従業員など人ののべ移動量、荷物など物品ののべ移動量、情報通信網サービスやホスティングサービスなどのネットワークサービスの利用、廃棄在庫量や保管在庫量など、様々である。従来の環境負荷評価装置には、このようなシステム製品の運用段階の様々な情報を入力することが難しい。

【 0 0 2 0 】

本発明は上述した従来の技術が有する問題点に鑑みてなされたものであって、製品の環境負荷改善効果を、簡便、的確に評価できる環境負荷評価装置、方法及び環境負荷評価用プログラムを提供することを目的とする。

【 0 0 2 1 】

本発明の他の目的は、ハードウェアとソフトウェアから構成されるシステム製品の環境負荷改善効果を、簡便、的確に評価できる環境負荷評価装置、方法及び環境負荷評価用プログラムを提供することにある。

【 0 0 2 2 】

【課題を解決するための手段】

本発明の環境負荷評価装置は、基準製品と対象製品の総合環境負荷値を比較評価する環境負荷評価装置であって、

前記基準製品の情報を入力する基準製品情報入力部と、

前記基準製品情報入力部に入力された情報を蓄積する基準製品情報蓄積部と、

前期対象製品の情報を入力する対象製品情報入力部と、

前記対象製品情報入力部に入力された情報を蓄積する対象製品情報蓄積部と、

環境負荷原単位を蓄積した環境負荷情報蓄積部と、

前記基準製品情報蓄積部と、前記対象製品情報蓄積部と、前記環境負荷情報蓄積部に蓄積された情報から、基準製品及び対象製品の総合環境負荷値を算出する環境負荷評価部と、

前記環境負荷評価部で算出された基準製品及び対象製品の総合環境負荷値を出力する出力部とを備えたことを特徴とする。

【 0 0 2 3 】

この場合、前記基準製品情報入力部が、前記基準製品の機器電力消費に関する情報を入力する基準製品機器電力消費量入力部を備え、前記対象製品の機器電力消費に関する情報を入力する対象製品機器電力消費量入力部を備えることとしてもよい。

【 0 0 2 4 】

また、前記基準製品情報入力部が、前記基準製品の情報紙使用に関する情報を

入力する基準製品情報紙使用量入力部を備え、前記対象製品の情報紙使用に関する情報を入力する対象製品情報紙使用量入力部を備えることとしてもよい。

【 0 0 2 5 】

また、前記基準製品情報入力部が、前記基準製品の人移動に関する情報を入力する基準製品人移動量入力部を備え、前記対象製品の人移動に関する情報を入力する対象製品人移動量入力部を備えることとしてもよい。

【 0 0 2 6 】

また、前記基準製品情報入力部が、前記基準製品の物品輸送に関する情報を入力する基準製品物品輸送量入力部を備え、前記対象製品の物品輸送に関する情報を入力する対象製品物品輸送量入力部を備えることとしてもよい。

【 0 0 2 7 】

また、前記基準製品情報入力部が、前記基準製品のネットワークサービス利用に関する情報を入力する基準製品ネットワークサービス利用量入力部を備え、前記対象製品のネットワークサービス利用に関する情報を入力する対象製品ネットワークサービス利用量入力部を備えることとしてもよい。

【 0 0 2 8 】

また、前記基準製品情報入力部が、前記基準製品の廃棄在庫に関する情報を入力する基準製品廃棄在庫量入力部を備え、前記対象製品の廃棄在庫に関する情報を入力する対象製品廃棄在庫量入力部を備えることとしてもよい。

【 0 0 2 9 】

また、前記基準製品情報入力部が、前記基準製品の保管在庫に関する情報を入力する基準製品保管在庫量入力部を備え、前記対象製品の保管在庫に関する情報を入力する対象製品保管在庫量入力部を備えることとしてもよい。

【 0 0 3 0 】

本発明の環境負荷評価方法は、基準製品と対象製品の総合環境負荷値を比較評価する環境負荷評価方法であって、

基準製品の情報及び対象製品の情報を対比しながら同時に入力し、

入力された基準製品と対象製品の情報を別々に蓄積し、

基準製品の情報と環境負荷原単位から、基準製品の総合環境負荷値を算出し、

対象製品の情報と環境負荷原単位から、対象製品の総合環境負荷値を算出し、
基準製品の総合環境負荷値と対象製品の総合環境負荷値を比較表示することを
特徴とする。

【 0 0 3 1 】

この場合、前記基準製品の情報及び対象製品の情報が、機器電力消費に関する
情報を含むこととしてもよい。

【 0 0 3 2 】

また、前記基準製品の情報及び対象製品の情報が、情報紙使用に関する情報を
含むこととしてもよい。

【 0 0 3 3 】

また、前記基準製品の情報及び対象製品の情報が、人移動に関する情報を含む
こととしてもよい。

【 0 0 3 4 】

また、前記基準製品の情報及び対象製品の情報が、物品輸送に関する情報を含
むこととしてもよい。

【 0 0 3 5 】

また、前記基準製品の情報及び対象製品の情報が、ネットワークサービス利用
に関する情報を含むこととしてもよい。

【 0 0 3 6 】

また、前記基準製品の情報及び対象製品の情報が、廃棄在庫に関する情報を含
むこととしてもよい。

【 0 0 3 7 】

また、前記基準製品の情報及び対象製品の情報が、保管在庫に関する情報を含
むこととしてもよい。

【 0 0 3 8 】

本発明の環境負荷評価用プログラムは、基準製品と対象製品の総合環境負荷値
を比較評価する環境負荷評価用プログラムであって、

基準製品の情報の入力を受け付ける処理と、

対象製品の情報の入力を受け付ける処理と、

基準製品の情報を蓄積する処理と、

対象製品の情報を蓄積する処理と、

基準製品の情報と環境負荷原単位から、基準製品の総合環境負荷値を算出する処理と、

対象製品の情報と環境負荷原単位から、対象製品の総合環境負荷値を算出する処理と、

基準製品の総合環境負荷値と対象製品の総合環境負荷値を比較表示する処理とをコンピュータに実行させる。

【 0 0 3 9 】

この場合、前記基準製品の情報及び対象製品の情報が、機器電力消費に関する情報を含むこととしてもよい。

【 0 0 4 0 】

また、前記基準製品の情報及び対象製品の情報が、情報紙使用に関する情報を含むこととしてもよい。

【 0 0 4 1 】

また、前記基準製品の情報及び対象製品の情報が、人移動に関する情報を含むこととしてもよい。

【 0 0 4 2 】

また、前記基準製品の情報及び対象製品の情報が、物品輸送に関する情報を含むこととしてもよい。

【 0 0 4 3 】

また、前記基準製品の情報及び対象製品の情報が、ネットワークサービス利用に関する情報を含むこととしてもよい。

【 0 0 4 4 】

また、前記基準製品の情報及び対象製品の情報が、廃棄在庫に関する情報を含むこととしてもよい。

【 0 0 4 5 】

また、前記基準製品の情報及び対象製品の情報が、保管在庫に関する情報を含むこととしてもよい。

【 0 0 4 6 】

【発明の実施の形態】

次に、本発明の実施の形態について、図面を参照して詳細に説明する。

【 0 0 4 7 】

図 1 は、本発明の第 1 の実施の形態の環境負荷評価装置の構成を表すブロック図である。

【 0 0 4 8 】

図 1 に示す環境負荷評価装置は、基準製品に関する活動の種類と量を入力するための基準製品情報入力部 1 と、基準製品情報入力部 1 から入力されたデータを蓄積する基準製品情報蓄積部 2 と、対象製品に関する活動の種類と量を入力するための対象製品情報入力部 3 と、対象製品情報入力部 3 から入力されたデータを蓄積する対象製品情報蓄積部 4 と、活動の単位量当たりの環境負荷値である環境負荷原単位データなどを蓄積する環境負荷情報蓄積部 5 と、基準製品情報蓄積部 2、対象製品情報蓄積部 4 および環境負荷情報蓄積部 5 に蓄積されているデータから、基準製品及び対象製品の総合環境負荷を算出する環境負荷評価部 6 と、入力したデータや算出された総合環境負荷値を出力する出力部 7 から構成されている。

【 0 0 4 9 】

次に、本発明の第 1 の実施の形態の環境負荷評価装置の動作について説明する。まず、この装置の使用者は、基準製品情報入力部 1 と対象製品情報入力部 3 に、それぞれ基準製品と対象製品の活動の種類と量を入力する。

【 0 0 5 0 】

次に、基準製品情報蓄積部 2 と対象製品情報蓄積部 4 は、それぞれ基準製品情報入力部 1 と対象製品情報入力部 3 で入力されたデータを蓄積する。

【 0 0 5 1 】

次に、環境負荷評価部 6 は、基準製品情報蓄積部 2 に蓄積されたデータと環境負荷情報蓄積部 5 に蓄積された環境負荷原単位データから、基準製品の総合環境負荷値を算出すると共に、対象製品情報蓄積部 4 に蓄積されたデータと環境負荷情報蓄積部 5 に蓄積された環境負荷原単位データから、対象製品の総合環境負荷

値を算出する。

【 0 0 5 2 】

最後に、出力部 7 は、環境負荷評価部 6 で算出された、基準製品と対象製品の総合環境負荷値を比較表示する。

【 0 0 5 3 】

次に、本発明の第 1 の実施の形態の環境負荷評価装置の作用について説明する。

【 0 0 5 4 】

環境負荷評価装置は、基準製品のための基準製品情報入力部 1、基準製品情報蓄積部 2 と、対象製品のための対象製品情報入力部 3、対象製品情報蓄積部 4 を別々に備えている。そのため、その一部が同じであったり類似している、基準製品、対象製品の環境負荷値の算出に用いるデータを、対比しながら同時に入力することができる。

【 0 0 5 5 】

図 2 は、本発明の第 2 の実施の形態の環境負荷評価装置の構成を表すブロック図である。

【 0 0 5 6 】

図 2 に示す環境負荷評価装置は、基本的な構成は図 1 に示した第 1 の実施形態と同様であり、図 1 における基準製品情報入力部 1 および対象製品情報入力部 3 の内部構成を異ならせたものである。このため、図 1 と同様に動作する部分については図 1 と同じ番号を付す。

【 0 0 5 7 】

図 2 に示す環境負荷評価装置は、基準製品に関する活動の種類と量を入力するための基準製品情報入力部 1 と、基準製品情報入力部 1 から入力されたデータを蓄積する基準製品情報蓄積部 2 と、対象製品に関する活動の種類と量を入力するための対象製品情報入力部 3 と、対象製品情報入力部 3 から入力されたデータを蓄積する対象製品情報蓄積部 4 と、活動の単位量当たりの環境負荷値である環境負荷原単位データを蓄積する環境負荷情報蓄積部 5 と、基準製品情報蓄積部 2、対象製品情報蓄積部 4、環境負荷情報蓄積部 5 のデータから、基準製品及び対象

製品の総合環境負荷を算出する環境負荷評価部 6 と、入力したデータや算出された総合環境負荷値を出力する出力部 7 から構成されている。

【 0 0 5 8 】

図 2 に示す環境負荷評価装置において、基準製品情報入力部 1 は、基準製品機器電力消費量入力部 1 1、基準製品情報紙使用量入力部 1 2、基準製品人移動量入力部 1 3、基準製品物品輸送量入力部 1 4、基準製品ネットワークサービス利用量入力部 1 5、基準製品廃棄在庫量入力部 1 6、基準製品保管在庫量入力部 1 7 から構成されている。

【 0 0 5 9 】

また、対象製品情報入力部 3 は、対象製品機器電力消費量入力部 2 1、対象製品情報紙使用量入力部 2 2、対象製品人移動量入力部 2 3、対象製品物品輸送量入力部 2 4、対象製品ネットワークサービス利用量入力部 2 5、対象製品廃棄在庫量入力部 2 6、対象製品保管在庫量入力部 2 7 から構成されている。

【 0 0 6 0 】

次に、本発明の第 2 の実施の形態の環境負荷評価装置の動作について説明する。まず、この装置の使用者は、基準製品情報入力部 1 と対象製品情報入力部 3 に、それぞれ基準製品と対象製品の活動の種類と量を入力する。

【 0 0 6 1 】

基準製品機器電力消費量入力部 1 1 及び対象製品機器電力消費量入力部 2 1 には、システムを構成する機器の電力消費量を入力する。基準製品情報紙使用量入力部 1 2 及び対象製品情報紙使用量入力部 2 2 には、プリンタ用紙など情報紙の使用量を入力する。基準製品人移動量入力部 1 3 及び対象製品人移動量入力部 2 3 には、従業員など人ののべ移動量を入力する。基準製品物品輸送量入力部 1 4 及び対象製品物品輸送量入力部 2 4 には、荷物など物品ののべ移動量を入力する。基準製品ネットワークサービス利用量入力部 1 5 及び対象製品ネットワークサービス利用量入力部 2 5 には、電話など情報通信網やインターネットデータセンターなどのネットワークサービスの利用量を入力する。基準製品廃棄在庫量入力部 1 6 及び対象製品廃棄在庫量入力部 2 6 には、基準製品及び対象製品が在庫を管理するシステム製品である場合、廃棄在庫量を入力する。基準製品保管在庫量

入力部 1 7 及び対象製品保管在庫量入力部 2 7 には、基準製品及び対象製品が在庫を管理するシステム製品である場合、保管在庫量を入力する。

【 0 0 6 2 】

次に、基準製品情報蓄積部 2 と対象製品情報蓄積部 4 は、それぞれ基準製品情報入力部 1 と対象製品情報入力部 3 で入力されたデータを蓄積する。

【 0 0 6 3 】

次に、環境負荷評価部 6 は、基準製品情報蓄積部 2 に蓄積されたデータと環境負荷情報蓄積部 5 に蓄積された環境負荷原単位データから、基準製品の総合環境負荷値を算出すると共に、対象製品情報蓄積部 4 に蓄積されたデータと環境負荷情報蓄積部 5 に蓄積された環境負荷原単位データから、対象製品の総合環境負荷値を算出する。

【 0 0 6 4 】

最後に、出力部 7 は、環境負荷評価部 6 で算出された、基準製品と対象製品の総合環境負荷値を比較表示する。

【 0 0 6 5 】

次に、本発明の第 2 の実施の形態の環境負荷評価装置の作用について説明する。この環境負荷評価装置は、基準製品情報入力部と対象製品情報入力部の各々が、機器電力消費量入力部、情報紙使用量入力部、人移動量入力部、物品輸送量入力部、ネットワークサービス利用量入力部、廃棄在庫量入力部、保管在庫量入力部を備えている。そのため、システム製品の運用段階に関する、環境負荷評価に必要なかつ十分な情報を容易に入力することができる。

【 0 0 6 6 】

次に、本発明の第 2 の実施の形態の環境負荷評価装置を具体的な実施例を用いて詳細に説明する。

【 0 0 6 7 】

図 3 は、本発明の第 2 の実施の形態の環境負荷評価装置の一実施例を表すブロック図である。図 3 に示す環境負荷評価装置は、コンピュータ 3 1、入力装置 3 2、出力装置 3 3、記録媒体 3 4 から構成されている。コンピュータ 3 1 は、記憶装置 3 5、データ処理装置 3 6 から構成されている。

【 0 0 6 8 】

入力装置 3 2 は、キーボードやマウスなどであり、図 2 の基準製品情報入力部 1 及び対象製品情報入力部 3 に対応する。出力装置 3 3 は、ディスプレイやプリンタなどであり、図 2 の出力部 7 に対応する。記録媒体 3 4 は、フロッピーディスク、CD-ROM などであり、本発明の環境負荷評価方法の処理手順を記述した評価プログラムを記録している。

【 0 0 6 9 】

記録媒体 3 4 に記録された評価プログラムは、データ処理装置 3 6 に読み込まれる。記憶装置 3 5 は、ハードディスクなどであり、図 2 の基準製品情報蓄積部 2、対象製品情報蓄積部 4 及び環境負荷情報蓄積部 5 に対応する。

【 0 0 7 0 】

データ処理装置 3 6 は、評価プログラムを搭載したマイクロプロセッサなどであり、図 2 の環境負荷評価部 6 に対応するとともに、記録媒体 3 4 から読み込まれた評価プログラムを実行する。

【 0 0 7 1 】

次に、本発明の第 2 の実施の形態の環境負荷評価装置の一実施例の入力画面や出力画面の表示例について説明する。図 4 ないし図 1 1 のそれぞれは、本発明の第 2 の実施の形態の環境負荷評価装置の一実施例の入力画面の例を示す図であり、図 1 2 は、本発明の第 2 の実施の形態の環境負荷評価装置の一実施例の出力画面の例を示す図である。

【 0 0 7 2 】

まず、図 4 に示す画面で、「機器電力消費量入力」、「情報紙使用量入力」、「人移動量入力」、「物品輸送量入力」、「ネットワークサービス利用量入力」、「廃棄在庫量入力」、「保管在庫量入力」、「評価」のいずれかを選択する。選択は、マウスなどで該当項目をクリックするなどによって行うことができる。

【 0 0 7 3 】

図 4 に示すの画面で「機器電力消費量入力」を選択すると、図 5 に示す画面が表示される。この画面は、上半分が対象システムの入力部、下半分が基準システムの入力部であり、各入力部は 6 行からなる。各行には、項目名、消費電力（W

）、台数、使用時間（h／台）の入力欄がある。項目名の入力欄には文字を、消費電力、台数、使用時間の入力欄には数字を入力できる。

【 0 0 7 4 】

図 4 に示す画面で「情報紙使用量入力」を選択すると、図 6 に示す画面が表示される。この画面は、上半分が対象システムの入力部、下半分が基準システムの入力部である。各入力部は 6 行からなり、各行には、項目名、用紙サイズ、使用枚数の入力欄がある。項目名の入力欄には文字を、使用枚数の入力欄には数字を入力できる。用紙サイズの入力欄は、「A 3」、「A 4」、「A 5」、「B 4」、「B 5」などの選択肢から選択入力できる。

【 0 0 7 5 】

図 4 に示す画面で「人移動量入力」を選択すると、図 7 に示す画面が表示される。この画面は、上半分が対象システムの入力部、下半分が基準システムの入力部であり、各入力部は 6 行からなる。各行には、項目名、移動手段、移動距離（km／回）、移動回数の入力欄がある。項目名の入力欄には文字を、移動距離、移動回数の入力欄には数字を入力できる。移動手段の入力欄は、「自動車」、「航空機」、「鉄道」、「バス」などの選択肢から選択入力できる。

【 0 0 7 6 】

図 4 に示す画面で「物品輸送量入力」を選択すると、図 8 に示す画面が表示される。この画面は、上半分が対象システムの入力部、下半分が基準システムの入力部であり、各入力部は 6 行からなる。各行には、項目名、輸送手段、輸送距離（km／回）、輸送回数、寸法（m³）の入力欄がある。項目名の入力欄には文字を、輸送距離、輸送回数、寸法の入力欄には数字を入力できる。輸送手段の入力欄は、「10tトラック」、「4tトラック」、「2tトラック」、「自動車」、「混載便」などの選択肢から選択入力できる。

【 0 0 7 7 】

図 4 に示す画面で「ネットワークサービス利用量入力」を選択すると、図 9 に示す画面が表示される。この画面は、上半分が対象システムの入力部、下半分が基準システムの入力部であり、各入力部は 6 行からなる。各行には、項目名、サービス種別、サービス利用量の入力欄がある。項目名の入力欄には文字を、サー

ビス利用量の入力欄には数字を入力できる。サービス種別の入力欄は、「公衆電話」、「IP接続」、「ホスティング」などの選択肢から選択入力できる。

【0078】

図4に示す画面で「廃棄在庫量入力」を選択すると、図10に示す画面が表示される。この画面は、上半分が対象システムの入力部、下半分が基準システムの入力部であり、各入力部は6行からなる。各行には、項目名、在庫分類、廃棄量の入力欄がある。項目名の入力欄には文字を、廃棄量の入力欄には数字を入力できる。在庫分類の入力欄は、「民生用電子機器」や「電子計算機」などの選択肢から選択入力できる。

【0079】

図4に示す画面で、「保管在庫量入力」を選択すると、図11に示す画面が表示される。この画面は、上半分が対象システムの入力部、下半分が基準システムの入力部であり、各入力部は6行からなる。各行には、項目名、保管場所消費エネルギー (Wh/m^2)、保管場所面積 (m^2)、保管期間 (月/年) の入力欄がある。項目名の入力欄には文字を、保管場所消費エネルギー、保管場所面積、保管期間の入力欄には数字を入力できる。

【0080】

図4に示す画面で、「評価」を選択すると、図12に示す画面が表示される。この画面は、基準システム製品の機器電力消費、情報紙使用、人移動、物品輸送、ネットワークサービス利用、廃棄在庫、保管在庫の各活動で発生する二酸化炭素 (CO_2) 排出量と、これらの合計である基準システム製品全体で発生する CO_2 排出量と、対象システム製品の機器電力消費、情報紙使用、人移動、物品輸送、ネットワークサービス利用、廃棄在庫、保管在庫の各活動で発生する CO_2 排出量と、これらの合計である対象システム製品全体で発生する CO_2 排出量と、基準システム製品に対する対象システムの CO_2 排出量削減率を表形式、及びグラフ形式で比較表示する。

【0081】

次に、本発明の第2の実施の形態の環境負荷評価装置の一実施例の動作について説明する。まず、この装置の使用者は、図4に示す画面から、「機器電力消費

量入力」、「情報紙使用量入力」、「人移動量入力」、「物品輸送量入力」、「ネットワークサービス利用量入力」、「廃棄在庫量入力」、「保管在庫量入力」のいずれかを選択する。

【 0 0 8 2 】

次に、図 5 ないし図 1 1 に示す画面から、基準システム製品及び対象システム製品のデータを入力する。

【 0 0 8 3 】

次に、図 4 に示す画面から、「評価」を選択すると、入力されたデータを用いて計算が実行され、その結果は図 1 2 に示す画面によって表示される。

【 0 0 8 4 】

基準システム製品及び対象システム製品の機器電力消費によって発生する CO_2 排出量は、次の式で計算される。但し、電気の CO_2 排出原単位は、環境負荷評価蓄積部 5 にあらかじめ蓄積されているものを用いる。

【 0 0 8 5 】

機器電力消費によって発生する CO_2 排出量 $[\text{t}] = \Sigma (\text{消費電力} [\text{W}] \times \text{使用時間} [\text{h}] \times \text{台数} \times \text{電気の} \text{CO}_2 \text{排出原単位} [\text{t} / \text{Wh}])$

基準システム製品及び対象システム製品の情報紙使用によって発生する CO_2 排出量は、次式で計算される。但し、各種の用紙サイズの CO_2 排出原単位は、環境負荷評価蓄積部 5 にあらかじめ蓄積されているものを用いる。

【 0 0 8 6 】

情報紙使用によって発生する CO_2 排出量 $[\text{t}] = \Sigma (\text{使用枚数} \times \text{用紙サイズの} \text{CO}_2 \text{排出原単位} [\text{t} / \text{枚}])$

基準システム製品及び対象システム製品の人移動によって発生する CO_2 排出量は、次式で計算される。但し、各種の移動手段の CO_2 排出原単位は、環境負荷評価蓄積部 5 にあらかじめ蓄積されているものを用いる。

【 0 0 8 7 】

人移動によって発生する CO_2 排出量 $[\text{t}] = \Sigma (\text{移動距離} [\text{km} / \text{回}] \times \text{移動回数} \times \text{移動手段の} \text{CO}_2 \text{排出原単位} [\text{t} / \text{km}])$

基準システム製品及び対象システム製品の物品輸送によって発生する CO_2 排

出量は、次式で計算される。但し、各種の輸送手段の CO_2 排出原単位と各種輸送手段の積載量は、環境負荷評価蓄積部 5 にあらかじめ蓄積されているものを用いる。

【 0 0 8 8 】

情報紙使用によって発生する CO_2 排出量 $[\text{t}] = \Sigma (\text{輸送距離} [\text{km}/\text{回}] \times \text{輸送回数} \times \text{寸法} [\text{m}^3] \div \text{輸送手段の積載量} [\text{m}^3] \times \text{輸送手段の} \text{CO}_2 \text{排出原単位} [\text{t}/\text{km}])$

基準システム製品及び対象システム製品のネットワークサービス利用によって発生する CO_2 排出量は、次の式で計算される。但し、各種のサービス種別の CO_2 排出原単位は、環境負荷評価蓄積部 5 にあらかじめ蓄積されているものを用いる。

【 0 0 8 9 】

ネットワークサービス利用によって発生する CO_2 排出量 $[\text{t}] = \Sigma (\text{サービス利用量} \times \text{サービス種別の} \text{CO}_2 \text{排出原単位})$

基準システム製品及び対象システム製品の廃棄在庫によって発生する CO_2 排出量は、次の式で計算される。但し、各種の在庫分類の CO_2 排出原単位は、環境負荷評価蓄積部 5 にあらかじめ蓄積されているものを用いる。

【 0 0 9 0 】

廃棄在庫によって発生する CO_2 排出量 $[\text{t}] = \Sigma (\text{廃棄量} \times \text{在庫分類の} \text{CO}_2 \text{排出原単位})$

基準システム製品及び対象システム製品の保管在庫によって発生する CO_2 排出量は、次の式で計算される。但し、電気の CO_2 排出原単位は、環境負荷評価蓄積部 5 にあらかじめ蓄積されているものを用いる。

【 0 0 9 1 】

保管在庫によって発生する CO_2 排出量 $[\text{t}] = \Sigma (\text{保管場所消費エネルギー} [\text{Wh}/\text{m}^2] \times \text{保管場所面積} [\text{m}^2] \times \text{保管期間} [\text{月}] \div 12 \times \text{電気の} \text{CO}_2 \text{排出原単位} [\text{t}/\text{Wh}])$

基準システム製品及び対象システム製品全体で発生する CO_2 排出量は、次の式で計算される。

【0092】

製品全体で発生する CO_2 排出量[t] = 機器電力消費によって発生する CO_2 排出量[t] + 情報紙使用によって発生する CO_2 排出量[t] + 人移動によって発生する CO_2 排出量[t] + 情報紙使用によって発生する CO_2 排出量[t] + ネットワークサービス利用によって発生する CO_2 排出量[t] + 廃棄在庫によって発生する CO_2 排出量[t] + 保管在庫によって発生する CO_2 排出量[t]

【0093】

【発明の効果】

本発明の第1の効果は、基準製品と比較して対象製品の環境負荷改善効果を簡便、的確に評価することができることである。

【0094】

その理由は、基準製品のための基準製品情報入力部、基準製品情報蓄積部と、対象製品のための対象製品情報入力部、対象製品情報蓄積部を別々に備えているため、基準製品と対象製品の環境負荷値の算出に用いるデータを、対比しながら同時に入力できるためである。

【0095】

本発明の第2の効果は、ハードウェアとソフトウェアから構成されるシステム製品の環境負荷改善効果を、簡便、的確に評価できることである。

【0096】

その理由は、基準製品情報入力部と対象製品情報入力部の各々が、機器電力消費量入力部、情報紙使用量入力部、人移動量入力部、物品輸送量入力部、ネットワークサービス利用量入力部、廃棄在庫量入力部、保管在庫量入力部を備えているため、システム製品の運用段階に関する、環境負荷評価に必要なかつ十分な情報を容易に入力できるためである。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明の第1の実施の形態の環境負荷評価装置の構成を表すブロック図である。

【図 2】

本発明の第 2 の実施の形態の環境負荷評価装置の構成を表すブロック図である。

【図 3】

本発明の第 2 の実施の形態の環境負荷評価装置の一実施例を表すブロック図である。

【図 4】

本発明の第 2 の実施の形態の環境負荷評価装置の一実施例の入力画面の例を示す図である。

【図 5】

本発明の第 2 の実施の形態の環境負荷評価装置の一実施例の入力画面の例を示す図である。

【図 6】

本発明の第 2 の実施の形態の環境負荷評価装置の一実施例の入力画面の例を示す図である。

【図 7】

本発明の第 2 の実施の形態の環境負荷評価装置の一実施例の入力画面の例を示す図である。

【図 8】

本発明の第 2 の実施の形態の環境負荷評価装置の一実施例の入力画面の例を示す図である。

【図 9】

本発明の第 2 の実施の形態の環境負荷評価装置の一実施例の入力画面の例を示す図である。

【図 10】

本発明の第 2 の実施の形態の環境負荷評価装置の一実施例の入力画面の例を示す図である。

【図 11】

本発明の第 2 の実施の形態の環境負荷評価装置の一実施例の入力画面の例を示す図である。

す図である。

【図 1 2】

本発明の第 2 の実施の形態の環境負荷評価装置の一実施例の出力画面の例を示す図である。

【図 1 3】

従来の環境負荷評価装置の構成を示すブロック図である。

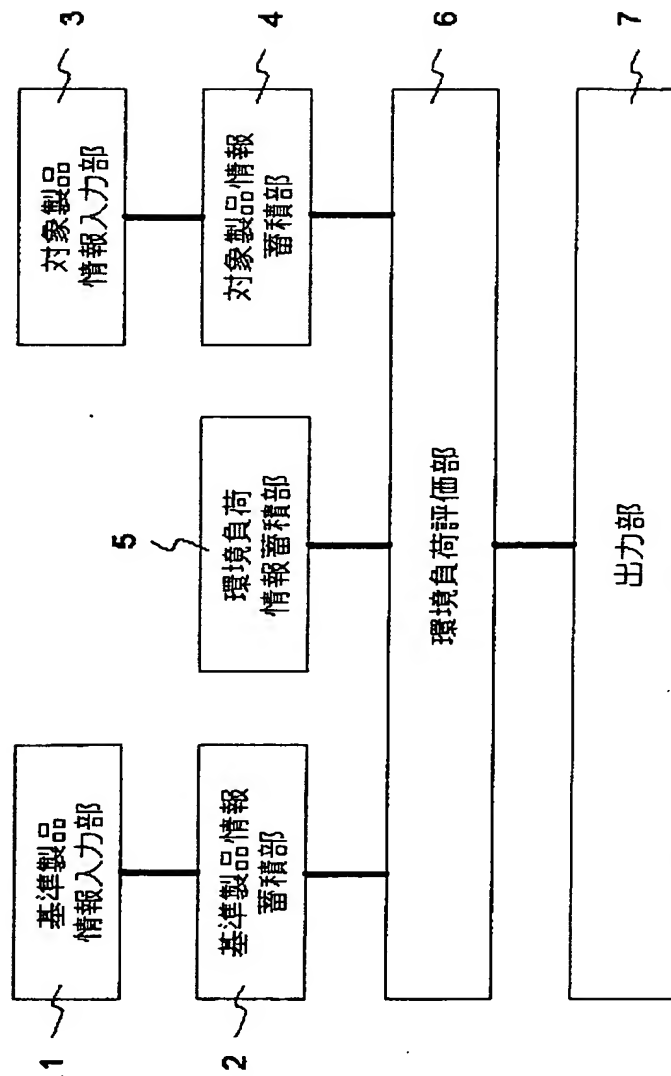
【符号の説明】

- 1 基準製品情報入力部
- 2 基準製品情報蓄積部
- 3 対象製品情報入力部
- 4 対象製品情報蓄積部
- 5 環境負荷情報蓄積部
- 6 環境負荷評価部
- 7 出力部
- 1 1 基準製品機器電力消費量入力部
- 1 2 基準製品情報紙使用量入力部
- 1 3 基準製品人移動量入力部
- 1 4 基準製品物品輸送量入力部
- 1 5 基準製品ネットワークサービス利用量入力部
- 1 6 基準製品廃棄在庫量入力部
- 1 7 基準製品保管在庫量入力部
- 2 1 対象製品機器電力消費量入力部
- 2 2 対象製品情報紙使用量入力部
- 2 3 対象製品人移動量入力部
- 2 4 対象製品物品輸送量入力部
- 2 5 対象製品ネットワークサービス利用量入力部
- 2 6 対象製品廃棄在庫量入力部
- 2 7 対象製品保管在庫量入力部
- 3 1 コンピュータ

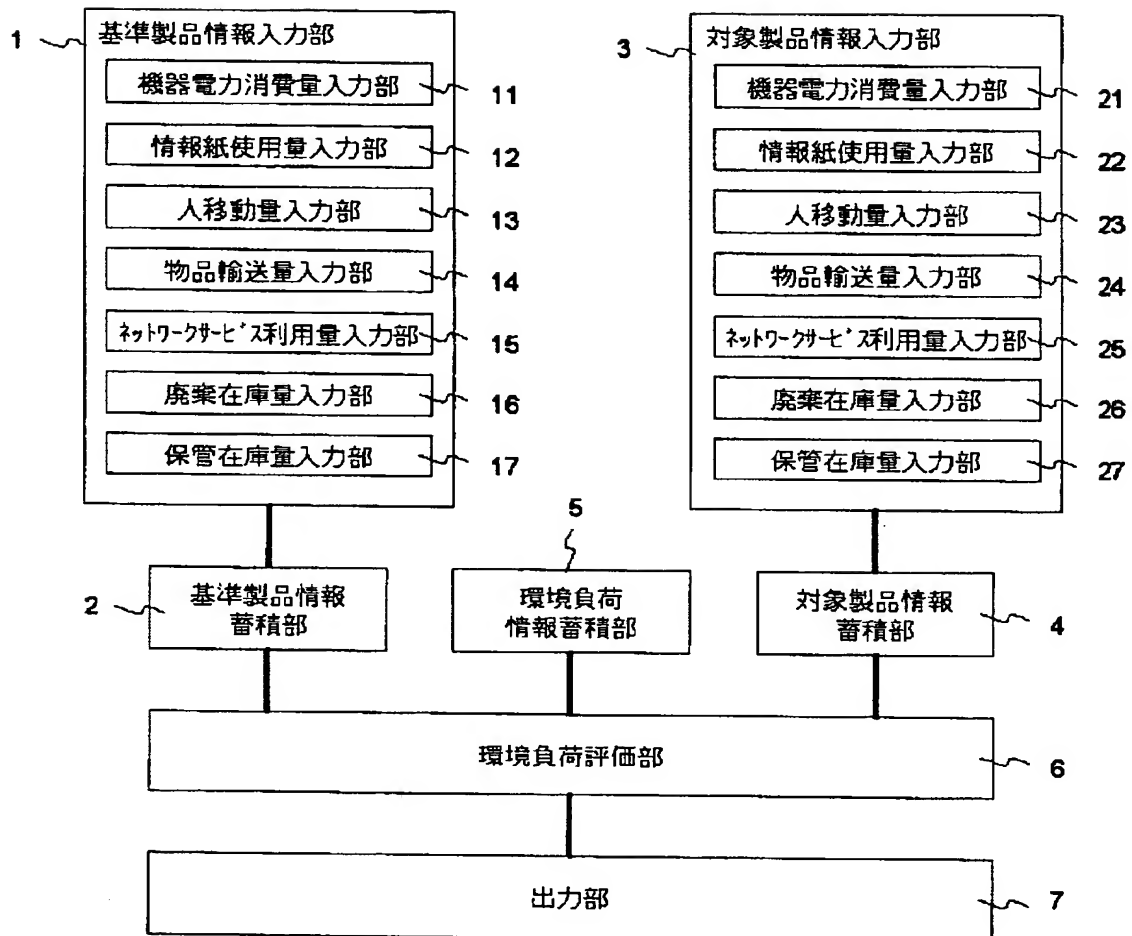
- 3 2 入力装置
- 3 3 出力装置
- 3 4 記録媒体
- 3 5 記憶装置
- 3 6 データ処理装置
- 4 1 製品情報入力部
- 4 2 環境負荷情報蓄積部
- 4 3 製品環境負荷評価部
- 4 4 出力部

【書類名】 図面

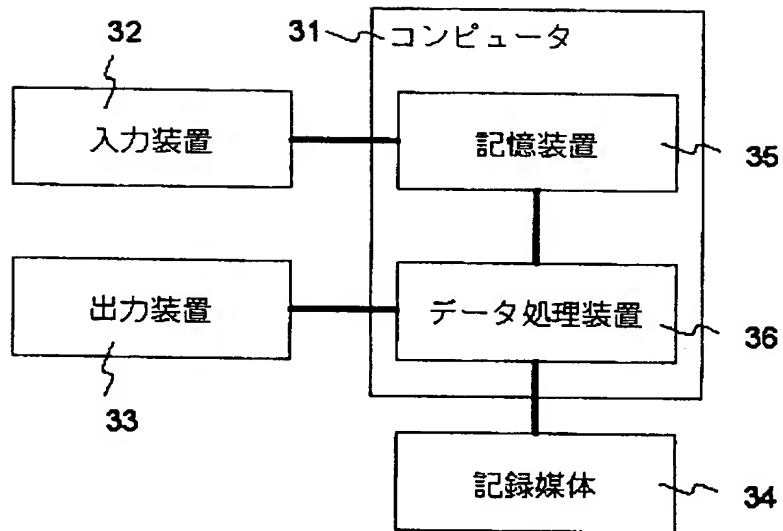
【図 1】



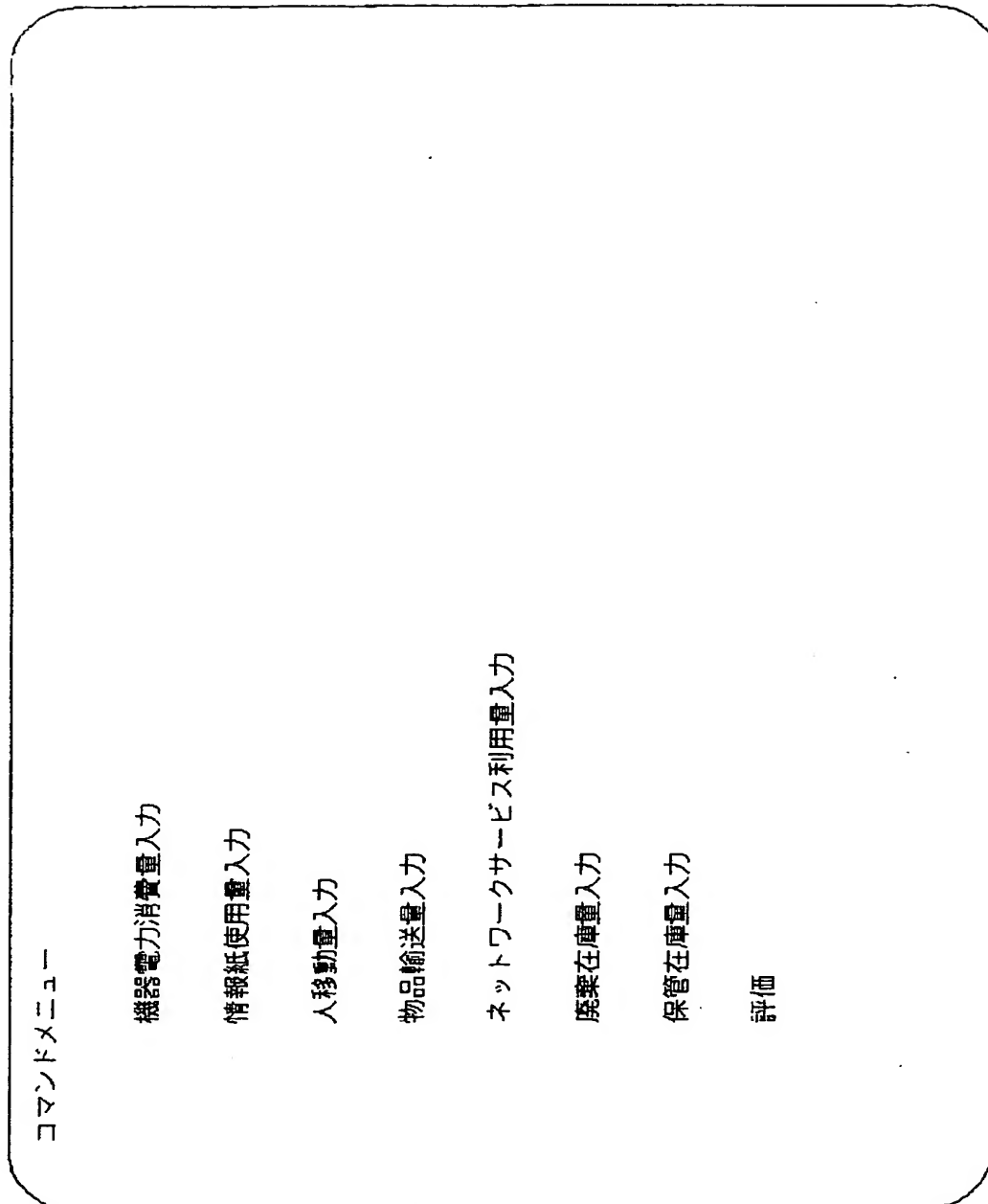
【図 2】



【図 3】



【図 4】



【図 5】

機器電力消費量入力					
項目名		消費電力(W)	台数	使用時間(h/台)	
対象システム	1 サーバA	300	2	8760	
	2 パソコンA	50	100	1000	
	3 プリンタA	800	3	1000	
	4				
	5				
	6				
基準システム	1 サーバB	1000	1	8760	
	2 パソコンB	70	100	1500	
	3 プリンタB	1200	3	1500	
	4 ファックスB	50	3	8760	
	5				
	6				

【図 6】

情報紙使用量入力			
対象システム	項目名	用紙サイズ	使用枚数
1	伝票	A4 ▼	1000
2			
3			
4			
5			
6			

基準システム	1	伝票	A4 ▼	1000
	2	ファックス紙	A4 ▼	1000
	3			
	4			
	5			
	6			

【図 7】

人移動量入力		項目名	移動手段	移動距離(km/回)	移動回数
対象システム	1	システム保守	自動車 ▼	20	6
	2		▼		
	3		▼		
	4		▼		
	5		▼		
	6		▼		
基準システム	1	システム保守	自動車 ▼	20	12
	2		▼		
	3		▼		
	4		▼		
	5		▼		
	6		▼		

【図 8】

物品輸送量入力		項目名	輸送手段	輸送距離 (km/回)	輸送回数	寸法(m³)
対象システム	1	製品X	10tトラック ▼	600	12	0.01
	2		▼			
	3		▼			
	4		▼			
	5		▼			
	6		▼			
基準システム	1	製品X	10tトラック ▼	600	12	0.01
	2	伝票	混載便 ▼	600	100	0.0005
	3		▼			
	4		▼			
	5		▼			
	6		▼			

【図 9】

ネットワークサービス利用量入力			
	項目名	サービス種別	サービス利用量
対象システム	1 サーバ管理	IP接続(時) ▼	300
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
基準システム	1 ファックス	公衆電話(時) ▼	900
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		

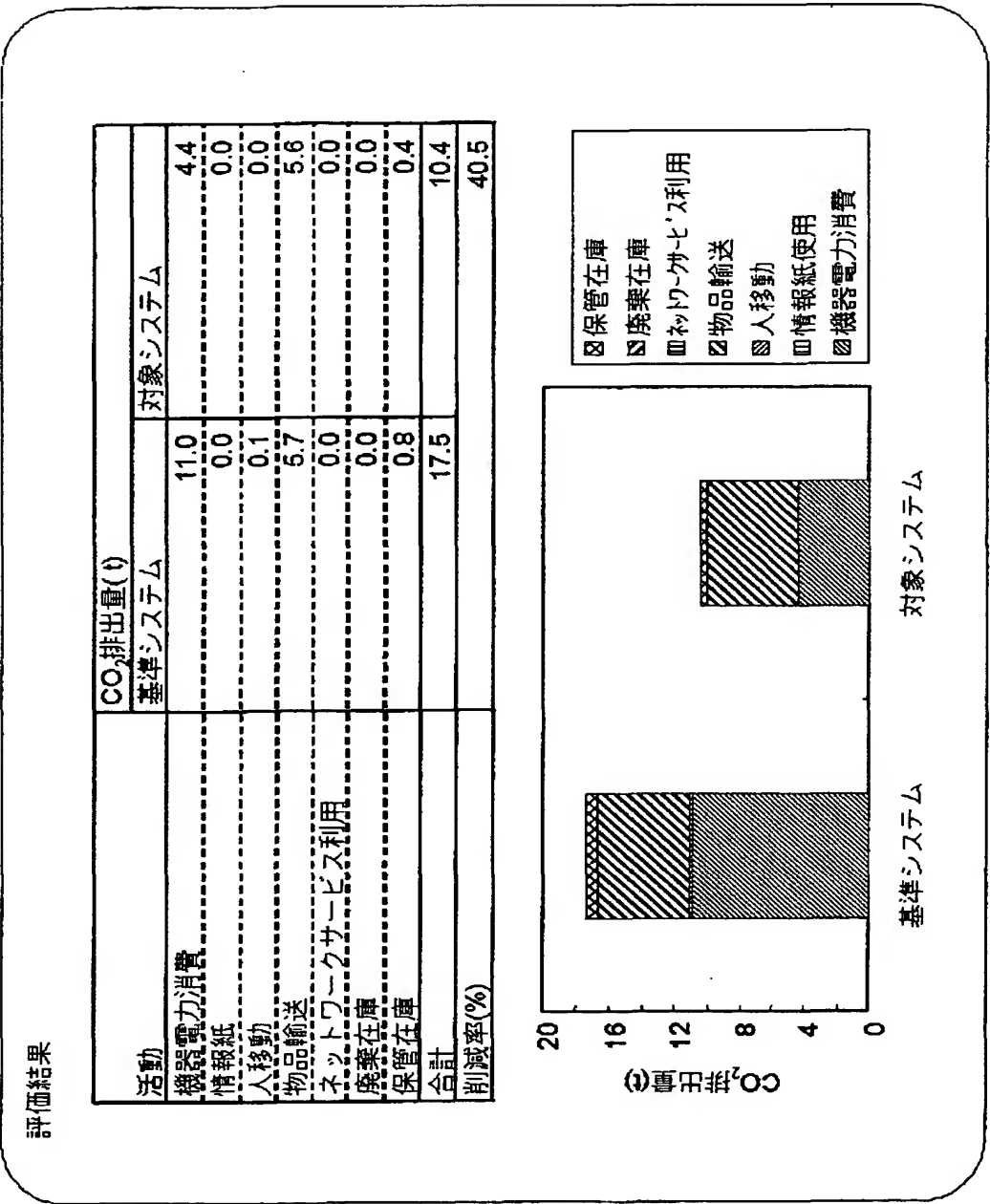
【図 10】

廃棄在庫量入力			
	項目名	在庫分類	廃棄量
対象システム	1 製品Y廃棄在庫	民生用電子機器(万円)	1.5
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
基準システム	1 製品Y廃棄在庫	民生用電子機器(万円)	3
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		

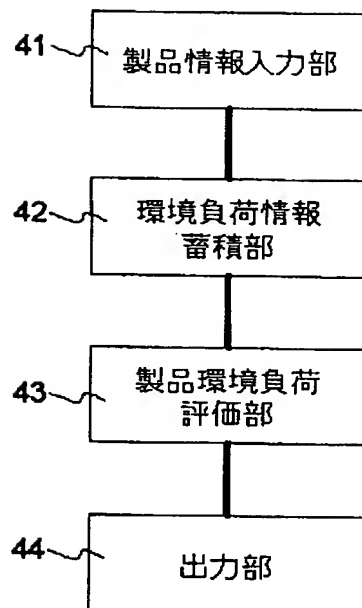
【図 1 1】

保管在庫電力		保管場所消費			
項目名		エネルギー(Wh/m ²)	保管場所面積(m ²)	保管期間(月/年)	
対象システム	1 製品Z保管在庫	30	30	12	
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
基準システム	1 製品Z保管在庫	30	60	12	
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				

【図 1 2】



【図 1 3】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 ハードウェアとソフトウェアから構成されるシステム製品の環境負荷改善効果を簡便、的確に評価する。

【解決手段】 比較の基準となる基準製品と比較の対象となる対象製品の環境負荷値の算出に用いるデータを、対比しながら同時に入力するため、基準製品情報入力部 1、基準製品情報蓄積部 2 と、対象製品情報入力部 3、対象製品環境負荷情報蓄積部 4 を別々に備える。環境負荷評価部 6 は、基準製品情報蓄積部 2 に蓄積されたデータと環境負荷情報蓄積部 5 に蓄積された環境負荷原単位データから、基準製品の総合環境負荷値を算出すると共に、対象製品情報蓄積部 4 に蓄積されたデータと環境負荷情報蓄積部 5 に蓄積された環境負荷原単位データから、対象製品の総合環境負荷値を算出する。出力部 7 は、環境負荷評価部 6 で算出された、基準製品と対象製品の総合環境負荷値を比較表示する。

【選択図】 図 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [0 0 0 0 0 4 2 3 7]

1. 変更年月日	1 9 9 0 年 8 月 2 9 日
[変更理由]	新規登録
住 所	東京都港区芝五丁目 7 番 1 号
氏 名	日本電気株式会社